



どうなる？

解

災害時の感染症対策

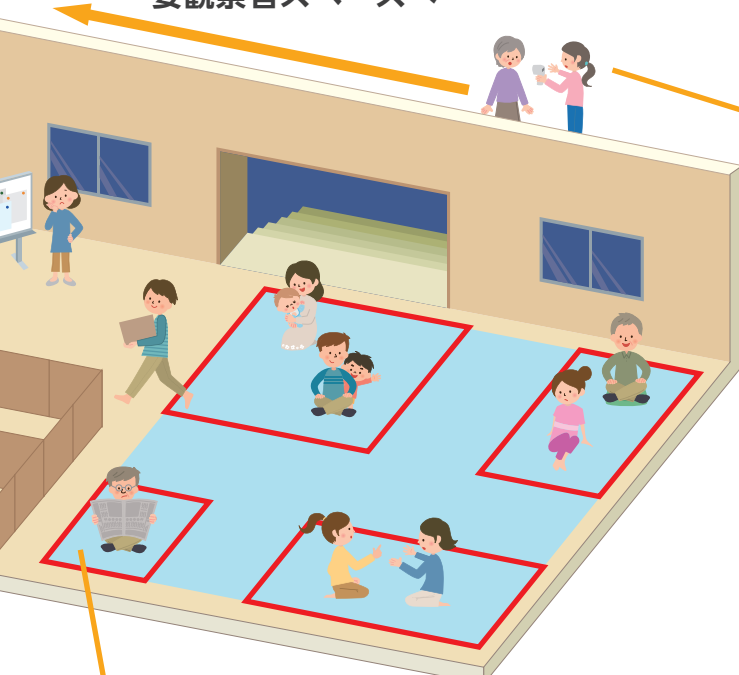


体調不良者は別室の要観察者スペースへ

災害発生時には、感染症の拡大リスクが高まる場合があります。いつ起こるか分からない災害。災害時の行動を「自分ごと化」して、今からできる備えを考えましょう。

☎危機管理課 ☎(632) 2053

ID 1023587



体調確認・体温測定を実施

避難所施設に入る前に、健康状態の確認と非接触型の体温計を使った検温を実施します。

また、確認のための待機列も人と人との間隔を空けて対応します。



体調不良者は要観察者スペースへ誘導します

避難者の中に、体調の優れない人がいた場合は、感染症拡大のリスクを回避するため、別のルートから別室の要観察者スペースに誘導し、受け付けを実施します。



▲別ルートから移動



▲要観察者スペース

家族間の距離を空けて避難

避難所は3密(密閉・密集・密接)になりやすく、感染症のリスクが高くなると考えられます。

家族間の距離を十分確保し、換気をするなど感染症対策の徹底に努めます。

**避難所は3密
(密閉・密集・密接)
になりやすい場所**

新型コロナウイルス感染症が終息していない状況で、災害が発生したらどうなるのか――。

避難所における感染症対策が必要になることが想定される中、本市では、6月に避難所開設・運営シミュレーション訓練を実施するなど、感染症対策の強化に取り組んでいます(上の記事参照)。

また、訓練で見えた課題を踏まえ、3月に策定した避難所開設・運営ガイドラインを修正し、市HPなどで公表・周知を行います。避難所運営は、地域の皆さんの力が不可欠です。ご協力をお願いします。

**感染症対策を意識して
しっかり準備をしましょう**

いつ発生してもおかしくない災害。「自分だけは大丈夫、今までも大丈夫だったから大丈夫」と思っていないませんか。

災害時は、自分と家族の命は自分で守る「自助」が基本です。家庭内備蓄や非常持出品を見直し、感染症防止のために、体温計や消毒液、マスクも準備しましょう。

皆さんにお願いしたい 3 つのコト

1 「避難」をしっかり理解しましょう ID 1023319

「避難」とは、「難」を避けることです。風水害の場合、安全な場所（洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域など、危険な場所の外）にいる人は、自宅の周りで災害が発生していない限り、避難所へ行く必要はありません。

危険な場所（洪水浸水想定区域など）にいる人は、速やかに避難所などの安全な場所へ避難してください。

感染症防止の観点から、自宅が安全な人は2階以上に、自宅外への避難が必要な人は、親戚、知人、友人宅などへの避難も有効です。

洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域が掲載されているハザードマップは、市HPまたは河川課（市役所8階）で入手できます。

2 避難情報を入手しましょう ID 1019013 ID 1012172

避難勧告などの避難情報は、宇都宮市登録制防災メールから情報を入手できます。メールを利用できない人は、「宇都宮市緊急告知機能付防災ラジオ」の購入補助制度をご活用ください。



▲メール登録はこちらから

3 持ち出し品を準備しておきましょう ID 1003237

感染防止のため、ご自身での健康管理にご協力ください。避難所へ行く際は、マスク、消毒液、体温計をできるだけ携行してください。

家庭内備蓄と非常持出品チェックリスト

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貴重品 | <input type="checkbox"/> 衛生用品 |
| <input type="checkbox"/> 衣料品・食料品 | (マスク・除菌シートなど) |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> メガネ、コンタクトレンズ |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 卓上コンロ |
| <input type="checkbox"/> 応急医薬品 | <input type="checkbox"/> その他の生活用品 |
| <input type="checkbox"/> 衣類・タオル | (毛布・ろうそく・ビニール袋など) |

防災士の声



県防災士会 理事
林 洋克 さん

避難所は性質上、密になりやすくなります。避難所に行くことをためらう必要はありませんが、自宅2階への垂直避難や親戚や知人の家への避難も、感染症を対策する上で、有効な避難方法です。

市では、避難所での感染所対策を踏まえたシミュレーション訓練も実施しました。感染症を防ぐためには、市民の皆さんの協力が不可欠です。必ず自分自身の健康状態の申告を行いましょう(体調不良やアレルギーなど)。

また、飲み水に加え、手洗いに使える水も用意するなど、非常持出品の見直しも改めて行うようにしてください。

TOPICS

6月に避難所開設・運営の訓練を実施

昨年の台風第19号規模の風水害を想定し、避難者の体調確認や3密防止策の対策を取りながら、避難所開設から避難者受け入れまでのプロセスを確認しました。

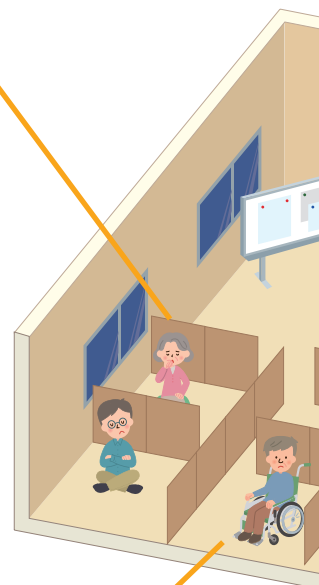
訓練で見えた課題を避難所開設・運営ガイドラインに反映させ、速やかに公表・周知しますので、地域ごとに改めて防災計画を見直してみましょう。 ID 1023194



感染症対策のための備蓄

本市では、感染症対策のための備蓄を進めています(要観察スペースを区切るためのパーティション、非接触型体温計、マスク、アルコールジェル、固形せっけんなど)。

ご自身の健康管理のためにも、改めて家庭内備蓄と非常持出品を見直してください。



要配慮者エリアを設置

足腰が不自由な人や持病を持つ人など、配慮すべき人を優先的に受け入れるスペースを設置します。

複数人が同室になることも想定し、パーティションを活用したレイアウトも考慮します。

また、避難所は、家族間の間隔を確保するなどの対応をとることから、これまでより収容人数が減ることが予想されます。本市では、開設する避難所を増やすなどの対応も行いますが、感染拡大防止の観点からも、自宅が安全な人は、2階への避難(垂直避難)を、自宅外への避難が必要な人は、親戚・知人の家への避難も検討してください(左上の記事参照)。

今日かもしれない「もしも」に備えて、災害時の行動を「自分ごと化」し、今自分にできる備えを考えてみませんか。